

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2020-31698
(P2020-31698A)

(43) 公開日 令和2年3月5日(2020.3.5)

(51) Int.Cl.
A 4 5 F 3/02 (2006.01)

F I
A 4 5 F 3/02 4 3 0

テーマコード (参考)
3 B 0 4 5

審査請求 有 請求項の数 8 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 (22) 出願日	特願2018-158034 (P2018-158034) 平成30年8月27日 (2018. 8. 27)	(71) 出願人 518133924 星野太郎バッグデザイン研究株式会社 東京都台東区上野3丁目7番5号 天野ビル5階 (74) 代理人 100106895 弁理士 橋本 洋一 (72) 発明者 星野 太郎 東京都台東区上野3丁目7番5号 天野ビル5階 星野太郎バッグデザイン研究株式会社内 Fターム(参考) 3B045 AA35 EA02 EB11 FC04 GA03 GB02 JA01 JB01 JC05
-----------------------	--	---

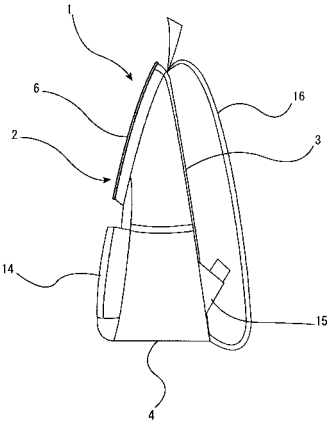
(54) 【発明の名称】 自立可能なリュックサック

(57) 【要約】

【課題】リュックサックを地面や床、テーブル等においてたときに自立可能とし、リュックサックの中に収納した物を転倒させないようにするとともに、取り出しやすくする。

【解決手段】リュックサック1は、前面2と背当て面3を等辺とし、底面4を底辺として、略二等辺三角形の形状をなし、自立可能としている。底面4と背当て面3との長さの比率は1対2.4である。背当て面3と底面4の内側には、平面状のウレタンフォームで形成された芯材5が取り付けられ、背当て面3と底面4は、芯材5により略直線状に支持される。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

前面と背当て面を等辺とし、底面を底辺として、略二等辺三角形の形状をなし、自立可能としたこと、
を特徴とするリュックサック。

【請求項 2】

前記底面と前記背当て面との長さの比率は 1 対 2 . 4 であること、
を特徴とする請求項 1 に記載のリュックサック。

【請求項 3】

前記背当て面と前記底面の内側には、芯材が取り付けられ、前記背当て面と前記底面は
、当該芯材により略直線状に支持されていること、
を特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のリュックサック。 10

【請求項 4】

前記芯材は平面状のウレタンフォームで形成されていること、
を特徴とする請求項 3 に記載のリュックサック。

【請求項 5】

前記前面の上部には、ファスナーにより開閉を行う U 字状の蓋部が形成されていること
、
を特徴とする請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載のリュックサック。 20

【請求項 6】

前記蓋部の縁部には、その形状に沿って芯材が取り付けられていること、
を特徴とする請求項 5 に記載のリュックサック。

【請求項 7】

前記縁部の芯材は棒状に形成されていること、
を特徴とする請求項 6 に記載のリュックサック。

【請求項 8】

前記蓋部の底部は、前記蓋部が閉じている状態において、リュックサック本体の高さ方向略中央に位置していること、
を特徴とする請求項 5 から 7 までのいずれか 1 項に記載のリュックサック。 30

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、自立可能なリュックサックに関する。

【背景技術】**【0002】**

リュックサックは従来より背負ったときの利便性や心地良さ、収納性等に重点がおかれ開発されてきた。そのため、背負っていないときのリュックサックの利便性については特に考慮されず、それに関する発明や考案も特に見当たらない。

【0003】

ところで、リュックサックを地面や床、テーブル等においたときに、リュックサックが自立しないことにより横に倒れ、リュックサックの中に収納した物も転倒して中身がこぼれてしまうことがあるといった課題があった。また、リュックサックが自立していれば、リュックサックを手で支える必要がなく、リュックサックの中のものを取り出しやすいというメリットがある。 40

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

本発明の主たる目的は、リュックサックの形状を略二等辺三角形にすることにより、置いたときに安定的に自立可能となるリュックサックを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0005】

上記目的を達成するため、本発明に係るリュックサックの第1の特徴は、前面と背当て面を等辺とし、底面を底辺として、略二等辺三角形の形状をなし、自立可能としたことにある。

【0006】

また、本発明に係るリュックサックの第2の特徴は、前記第1の特徴における前記底面と前記背当て面との長さの比率が1対2.4であることにある。

【0007】

さらに、本発明に係るリュックサックの第3の特徴は、前記第1又は第2の特徴における前記背当て面と前記底面の内側に、芯材が取り付けられ、前記背当て面と前記底面は、当該芯材により略直線状に支持されていることにある。

10

【0008】

さらにまた、本発明に係るリュックサックの第4の特徴は、前記第3の特徴における前記芯材が平面状のウレタンフォームで形成されていることにある。

【0009】

また、本発明に係るリュックサックの第5の特徴は、前記第1から第4までのいずれかの特徴における前記前面の上部に、ファスナーにより開閉を行うU字状の蓋部が形成されていることにある。

【0010】

さらにまた、本発明に係るリュックサックの第6の特徴は、前記第5の特徴における前記蓋部の縁部に、その形状に沿って芯材が取り付けられていることにある。

20

【0011】

また、本発明に係るリュックサックの第7の特徴は、前記第6の特徴における前記縁部の芯材が棒状に形成されていることにある。

【0012】

さらにまた、本発明に係るリュックサックの第8の特徴は、前記第5から第7のいずれかの特徴における前記蓋部の底部が、前記蓋部が閉じている状態において、リュックサック本体の高さ方向略中央に位置していることにある。

【発明の効果】

【0013】

本発明によれば、リュックサックは安定して自立可能となるので、置いたときに収納した物を倒すことなくそのままの状態に保つことができるとともに、取り出しが容易となる。

30

【図面の簡単な説明】

【0014】

【図1】リュックサックの側面図である。

【図2】リュックサックの蓋部が上方へ開けられている状態を示す断面側面図である。

【図3】リュックサックの側面の辺の長さが1対2.4の二等辺三角形で形成されていることを示す説明図である。

【図4】本発明の実施例におけるリュックサックの正面図である。

40

【図5】蓋部の縁部の状態を示したものである。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

以下、図面を参照して、本発明に係るリュックサックの実施の形態を実施例に沿って詳細に説明する。

【実施例1】

【0016】

図中1はリュックサックであり、前面2、背当て面3、底面4を備えている。前面2は主にリュックサック1内部へ荷物を出し入れする部分であり、背当て面3はリュックサック1を背負った際、背中に当たる部分で、肩掛けベルト16を備えている。また、底面4

50

はリュックサック 1 の底部であり、リュックサック 1 を床や地面に置いた際にそれらの場所と接触する部分である。

【0017】

図 1 から 3 は、リュックサック 1 の側面図であり、リュックサック 1 は側面からみて前面 2 と背当て面 3 を等辺とし、底面 4 を底辺とする略二等辺三角形の形状に形成されている。この略二等辺三角形の各辺の長さの比率は底辺 1 に対し等辺 2.4 であることが望ましい。実施例では、底面 4 が 1 に対し、背当て面 3 は 2.4 の比率の長さで構成されている。

【0018】

図 2 にあるように、背当て面 3 と底面 4 の内側には、芯材 5 が全体的に取り付けられている。芯材 5 は平面状で、材質としてはウレタンフォームが望ましい。三角形の 3 辺のうち背当て面 3 及び底面 4 の 2 辺に芯材 5 を取り付けることで、背当て面 3 及び底面 4 が略直線状に支持されて 2 辺の形状が固定され、安定した形状を保つことができる。また、リュックサックの形状を略二等辺三角形とすることで、床等に置いたときのリュックサックの安定感がまし、常に自立することができる。

【0019】

図 4 は、リュックサック 1 の正面図であり、前面 2 の上部に略 U 字状の蓋部 6 が形成されている。蓋部 6 の縁部 7 には、開閉を行うファスナー 8 が設けられており、リュックサック 1 に物を収納したり、取り出す場合には、ファスナー 8 のスライダー（図示せず）をスライドさせ、蓋部 6 を図 2 のように上方に上げる。蓋部 6 のファスナー 8 の形状が U 字状に形成されているため、力の入りやすい手前に引く力で蓋部 6 を容易に開閉可能となる。

【0020】

また、縁部 7 にはその形状に沿って玉へり 9 が設けられ、その中に芯材 10 が挿入、取り付けられている。芯材 10 は、図示の例では棒状に形成されていて、材質はポリエステルが望ましい。これにより蓋部 6 の形状が保たれ、ファスナー 8 の開閉がスムーズになり、かつ、蓋部 6 が左右方向に垂れることがなくなり、リュックサック 1 の重心バランスが安定する。11 はリュックサック 1 本体の前身頃生地であり、玉へり 9 と縫着され、連続して設けられている。

【0021】

さらに、蓋部 6 の縁部 7 の底部 12 は、蓋部 6 が閉塞されている状態において、リュックサック 1 の高さ方向略中央に位置するように形成されている。これにより、蓋部 6 がリュックサック 1 の高さ全長に対しておおよそ半分開くことになり、内容物を容易に目視でき、また出し入れしやすくなる。

【0022】

図示の例では、前面 2 の下部であって、蓋部 6 の下方に、ファスナー 13 を縁部に備えたポケット 14 が設けられており、ファスナー 13 のスライダー（図示せず）をスライドさせることにより、ポケット 14 の開閉が可能となっていて、ポケット 14 内へも物を収納できるようになっている。また、背当て面 3 にもファスナーを有しないポケット 15 が設けられており、物の出し入れが可能になっている。本発明は、リュックサック 1 が側面略二等辺三角形に形成され、かつ、背当て面 3 及び底面 4 を芯材 5 が支持しているため、ポケット 14、15 内に荷物が収納されていても、前後に転倒しにくくなっている。なお、ポケット 14、15 は、不要な場合は設けなくてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0023】

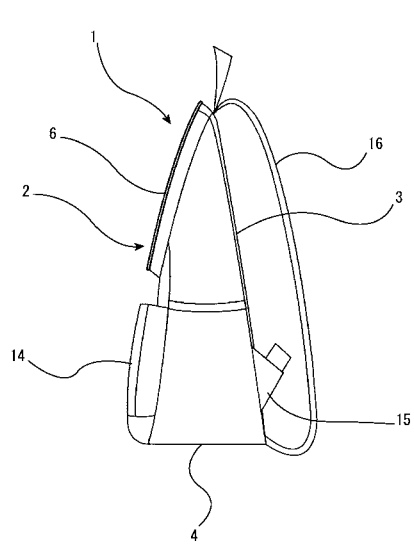
本発明は、リュックサックだけでなく、バッグの分野にも応用することができ、例えばトートバッグのようなバッグにおいても、二等辺三角形のフォルムを保つことにより自立可能となる。

【符号の説明】

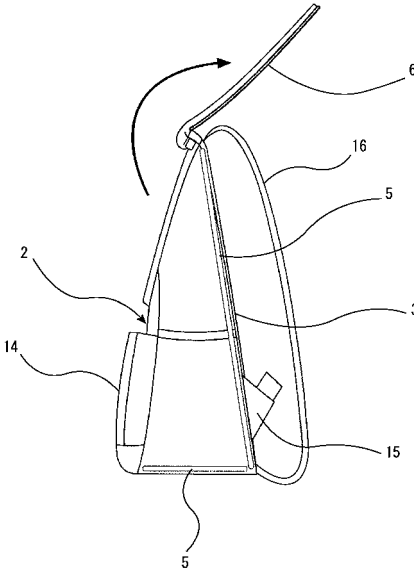
【0024】

- 1 リュックサック
- 2 前面
- 3 背当て面
- 4 底面
- 5 芯材
- 6 蓋部
- 7 縁部
- 8 ファスナー
- 9 玉へり
- 10 芯材

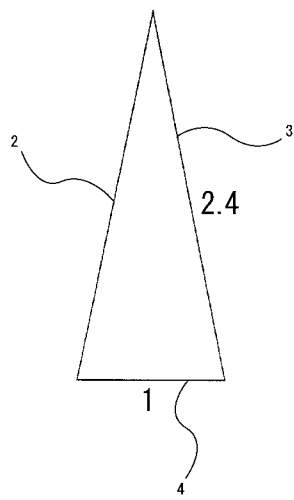
【図 1】



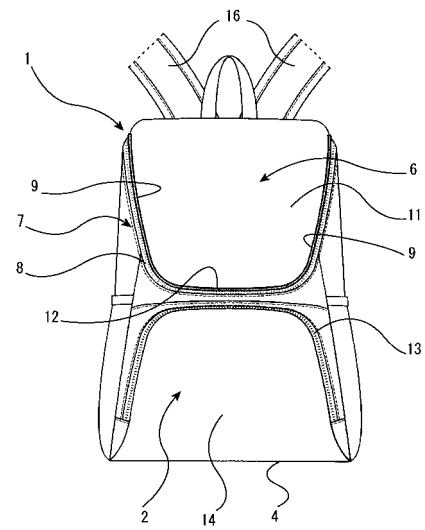
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

